

令和4年7月1日発行



こうじえん

普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター

TEL：0193-64-2220

FAX：0193-64-5631

岩泉普及サブセンター

TEL：0194-22-3115

FAX：0194-22-2806

いわてアグリベンチャーネット

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

木村勇一さん、長い間ありがとうございました！

～農業農村指導士認定期間満了に伴い感謝状を贈呈～

県内では、令和3年度末をもって農業農村指導士11名、青年農業士6名の方々が認定期間を満了されました。宮古管内では木村勇一さんが平成15年度から19年間の長きにわたる認定期間を満了されております。川内や区界地区において花苗生産を中心として経営される傍ら、農業農村指導士として地域農業の先導や新規就農者の育成等に御尽力いただきました。

去る4月26日に盛岡市において、認定期間を満了された方々のこれまでの御尽力に対して感謝状の贈呈式が開催されました。

式では、県の農林水産部長から感謝状と記念品が贈呈された後、県農業農村指導士協会会長から感謝の言葉をいただくとともに、長年の活動を振り返って、懇談が行われました。

木村さんにおいては、農業農村指導士を卒業することとなりますが、宮古地域の農業がさらに発展するよう、引き続き活躍していただくことを関係機関でも期待しており、お力添えをいただきたいと思います。

【担当：鈴木】



農薬を適正に使用しましょう！

令和4年度岩手県農薬危害防止運動の実施期間は6月1日から8月31日までです。今年度の重点指導事項は以下のとおりですので、農薬の適正使用に努め、農薬危害を防止しましょう。

- 1 農薬ラベルによる**使用基準の確認と使用履歴の記帳を徹底**
- 2 土壌くん蒸剤を使用した後の適正な管理の実施
 - 適正な材質および厚さの資材で**完全に被覆**
 - 農薬の揮散によって**健康被害が生じないよう周辺状況に最大限注意**
- 3 住宅地等で使用する場合は、**周辺への配慮と飛散防止対策を徹底**
- 4 誤飲防止のため、**施錠された場所に保管するなど、保管管理を徹底**



【担当：千田】

水稻の栽培管理を適切に実施しましょう！

1 これまでの生育経過

山田町荒川の生育診断圃では、本年度、移植直後は気温が高まりましたが、6月前半は低温で推移しました。

6月15日の生育調査結果は、「あきたこまち」「銀河のしずく」いずれも、草丈は平年よりやや短く、茎数と葉齢は概ね平年並となりました。

2 今後の技術対策

7月前半の気温は平年よりも高い予報のため、幼穂形成期が早まる見込みです。

(1) 中干し後の水管理

○中干し終了後は**間断灌漑**とします。幼穂形成期（概ね7月10～15日）には4～6cm程度の水深とし、減数分裂期（概ね7月15～20日）以降に17℃以下の強い低温が予想される場合は15cm程度の深水管理をしましょう。

(2) 追肥

○葉色がさめたのを確認したら**幼穂形成期に追肥**します（N成分2kg/10a以内）。

(3) いもち防除

○田植え後の**取置苗はいもち病の発生源となるので早急に処分**してください。

○箱施用剤を使用した場合は、穂いもち予防剤の施用（7月中旬）または出穂直前と穂揃期の2回の茎葉散布を基本に防除を行ってください。

(4) カメムシ防除

○畦畔雑草は出穂の15～10日前までに地域で一斉に刈払い、その後防除情報を参考に**適期防除に努め**ましょう。

○水田内のノビエ、シズイ、ホタルイ類等の雑草も発生源となるので、茎葉処理除草剤等を活用して今のうちに除草を徹底しましょう。
【担当：小野】

全国和牛能力共進会の予備選抜会で宮古・岩泉管内の牛が選抜！

5年に一度開催され、和牛のオリンピックとも言われる全国和牛能力共進会、その鹿児島大会が今年の10月に控えています。

6月までに開催された予備選抜会では、全ての区で宮古・岩泉管内の牛が出品候補牛として選ばれております。

7月27日には、岩手県の代表を決める岩手県畜産共進会が開催されます。農協や県などで構成される全共支援チームで巡回し、県の代表になれるよう飼養者の皆様とともに飼養管理に努めています。

当管内の牛が全国の舞台に立てるよう皆様応援よろしくお願いします！

【担当：澤田】

出品区	名号	生産者・飼養者	市町村
第1区	百合山	高田泰義	宮古市
第2区	ゆりぐも	佐々木和時美	岩泉町
第3区	ひなこ	佐々木武美	宮古市
	れぐも	澤田時治	宮古市
	ゆかり	合砂哲士	岩泉町
	ふじゆりぐも	工藤ミエ	岩泉町
第4区	やよい	高田泰義	宮古市
	やまねてんのう	工藤ミエ	岩泉町
第5区	みなみ	工藤ミエ	岩泉町
	あきつねぐも		
	あきゆりぐも		
第6区	しげぐも	関川善弘	宮古市



令和4年度普及センターの実証圃を紹介します！

○「銀河のしずく」高品質・多収栽培実証圃(山田町豊間根)

【目的】「銀河のしずく」栽培で、品質を維持しつつ、多収を狙うための宮古地域の施肥体系について検討します。

【内容】

- ・昨年度の実証では、従来の追肥時期よりも早い追肥により、収量が向上しました。より宮古地域に適した施肥体系を明らかにし、栽培マニュアルへの反映を目指します。
- ・実証期間：令和4年4月～令和4年10月

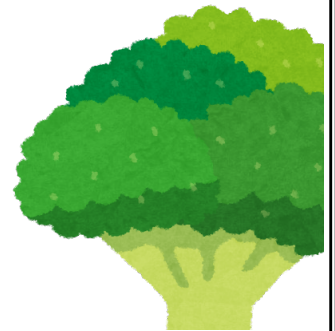


○ブロッコリー根こぶ病対策実証展示圃(岩泉町小本、田野畑村明戸・尾肝要)

【目的】ブロッコリーの根こぶ病対策技術の導入推進を行い、被害低減を図ります。

【内容】

- ・根こぶ病を防ぐ技術として、転炉スラグ施用により土壌を高pH(7.5を目安)に矯正し、発病を抑える技術があります。薬剤防除と転炉スラグ施用の組み合わせなど総合的な防除技術を実証展示します。
- ・実証期間：令和4年3月～令和4年7月(小本、明戸)、令和4年7月～令和4年11月(尾肝要)



○ブロッコリーの春どり作型による長期無追肥育苗実証(宮古市田代)

【目的】ブロッコリーの生育均一化により、収穫作業の作業効率向上を目指します。

【内容】

- ・長期無追肥育苗とは、キャベツ等の苗で長期間施肥を行わず水だけで育苗を維持することで、徒長せず、生育が揃い、定植適期が広い苗になります。春どりのブロッコリーにおける長期無追肥育苗の効果について、生育の斉一化等の確認を行います。
- ・実証期間：令和4年2月～令和4年6月15日

○切り花用ヒマワリ栽培試験(宮古市川井)

【目的】新たな花きの品目として有望な「切り花ヒマワリ」について、露地栽培で品質の良いものを安定して生産する技術の確立を目指します。

【内容】

- ・セルトレイに播種し、セルトレイのまま圃場で生育させることで根域が制限され、草丈や茎の太さが抑えられ、高品質な切り花ヒマワリの生産されることを期待します。
- ・実証期間：令和4年4月～令和4年8月



○草地における土壌改良資材の単年多量施用にかかる現地試験(岩泉町大牛内、田野畑村長嶺)

【目的】

草地の生産性維持のための土壌改良資材の散布について、単年多量施用を検討し、散布作業の労力低減を図ります。

【内容】

- ・炭酸カルシウムを標準量、3倍量、5倍量施用した区の1～3番草の収量等と土壌の化学性の変化を経年調査し、単年多量施用の草地の生産性に及ぼす影響を調べます。
- ・実証期間：令和3年10月1日～令和8年3月31日



台風被害の防止に向けた技術対策について

近年、自然災害等が多発しており、農作物の被害対策がますます重要になってきています。これから台風シーズンを迎えるにあたり、ハウス栽培などの園芸品目の被害対策についてもう一度確認を行いましょう！

下記のアドレス（県のホームページ）に、関連資料が掲載されていますので、ご確認ください。

<https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/seisan/1022400/index.html>

下記の表は、農業用ハウスの被害防止に向けた台風前のチェックリストです。自分のハウスでは十分な対策がれているかどうか、確認しましょう。

情報収集	① 最新の気象情報、警報、注意報を常にチェックしていますか。
周辺整備	② ハウス周辺から飛来が予想されるものを片付けましたか。
	③ 燃料タンクやガスボンベ等はしっかりと固定されていますか。
	④ 施設周辺の排水溝やハウスの谷樋、縦樋等のゴミは取り除きましたか。
停電対策	⑤ タンクにかん水用水を貯水しましたか。
	⑥ 自動換気(天窓、側窓)・遮光カーテンの手動開閉の操作器具や足場は準備できていますか。
	⑦ (発電機を持っている場合)非常用発電機を養液栽培装置、環境制御装置に接続しましたか。
破損・倒壊対策	⑧ 被覆材のたるみや破れはありませんか。
	⑨ 換気部(サイド部、谷部)、被覆材の隙間等の風の吹き込み口となる箇所はありませんか。
	⑩ ハウスバンド、被覆材の留め金具に緩みはありませんか。
	⑪ ブレースや筋かいの留め金具に緩みはありませんか。
	⑫ 基礎部、接続部分、谷樋・柱に腐食・サビはありませんか。
	⑬ 準備していた斜材を設置するなど応急的な補強はしましたか。
	⑭ ハウスの出入り口の補強(かんぬき等)や戸締まりはしましたか。
⑮ (換気扇のあるハウス)換気扇をまわして排気し、ハウス内を減圧していますか。	

【担当：小原】

肥料コスト低減技術について

肥料価格が高騰し、農業経営を圧迫しています。この影響を緩和するため、肥料コスト低減に向けた取り組みの徹底が必要です。

岩手県の耕地土壌は、長年の土づくりの結果、土壌養分が蓄積傾向になっています。このため、以下の4つのポイントを中心に肥料コストの低減に取り組みましょう。

- 1 土壌診断に基づく適正施肥の推進
- 2 たい肥等有機物の活用
- 3 施肥量低減技術の導入
- 4 肥料銘柄の見直しや調達方法の改善

具体的な技術内容は下記に紹介されていますので、参考にしてください。

<https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/nougyougijutsu/nouyaku/1049686.html>

「岩手県肥料コスト低減技術マニュアル」

肥料コストの低減について、取り組み方法に悩んだ場合は、普及センターへご相談ください。

【担当：小原】

4月に宮古普及センターに赴任し、あっという間に3か月が経ってしまいました。ブロッコリーの収穫最盛期が経過し、これからピーマンやきゅうりなどの最盛期を迎えます。野菜を担当している私にとっては、緊張感のある3か月でした。

肥料コスト低減の話題を取り上げましたが、普及センターも、これまで以上に低コスト化や省力化などに取り組まねばと感じています。みんなで知恵を出し合って、今の状況を乗り切る方法を考えていきましょう。

(小原)